

# DKIM が動作していることの検証

## 目次

[はじめに](#)

[確認](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、DKIM が機能していることを検証する方法を説明します。

## 確認

Cisco E メール セキュリティ アプライアンス (ESA) で DKIM が機能していることを確認する最も簡単な方法は、外部のアカウントに電子メールを送信して、そのヘッダーを調べることです。次の例では、メッセージが @gmail.com アカウントに送信されています。

```
Delivered-To: user@gmail.com
Return-Path: <bob@example.com>
Received-SPF: pass (google.com: domain of bob@example.com
designates <IP Address> as permitted sender)
client-ip=<IP Address>;
Authentication-Results: mx.google.com; spf=pass
(google.com: domain of bob@example.com designates
<IP Address> as permitted sender) smtp.mail=bob@example.com;
dkim=pass (test mode) header.i=bob@example.com
```

Authentication-Results の行に、dkim=pass と示されていることを確認します。

注: Yahoo などの一部のクライアントでは、多数のヘッダーを削除する傾向があることに注意してください。複数のクライアントに対してこの検証を行って、DKIM が機能していることを確認してください。

次のいくつかの外部ソースを参照して、設定を検証することもできます。

<http://www.kitterman.com/spf/validate.html>

[dkim-test@testing.dkim.org](mailto:dkim-test@testing.dkim.org)

他にも各種のリフレクタを利用できます。

RFC4871 との検証に現在利用できるリフレクタ：  
ポート 25：[check-auth@verifier.port25.com](mailto:check-auth@verifier.port25.com)

RFC4871 および RFC4870 との検証に現在利用できるリフレクタ :

Alt-N : [dkim-test@altn.com](mailto:dkim-test@altn.com)

RFC4871 および RFC4870 との検証に現在利用できるリフレクタ :

SendMail : [sa-test@sendmail.net](mailto:sa-test@sendmail.net)

ドラフト allman-00 および allman-01 との検証に現在利用できるリフレクタ :

Elandsys : [autorespond+dkim@dk.elandsys.com](mailto:autorespond+dkim@dk.elandsys.com)

RFC4871 および RFC4870 との検証に現在利用できるリフレクタ :

Blackops : [dktest@blackops.org](mailto:dktest@blackops.org)

## 関連情報

- [Cisco 電子メール セキュリティ アプライアンス - エンド ユーザ ガイド](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント - Cisco Systems](#)